

令和元年度 後期高齢者医療訪問指導業務 の効果検証

1 趣旨

令和元年度に実施した「後期高齢者医療訪問指導業務」の効果を検証する。

2 対象者

平成31年2月～令和元年6月の間に、ひと月に同一医療機関を15日以上外来受診した者

3 効果の把握

対象者の、訪問実施前と訪問実施後(令和2年2月～同年6月受診)のデータ(レセプト数、受診日数、医療費等)を比較

4 訪問相談事業の執行体制

業者への委託により実施。

<委託内容>

○委託業者:株式会社ベネフィット・ワン

○訪問指導従事者:保健師・看護師

○実績金額:4,171,420円

○国補助:1/2 特別調整交付金

5 訪問実績

候補者として選定した845人のうち、訪問の承諾が得られた246人に対し自宅訪問し、適正受診の指導等を実施した。

6 訪問相談事業に係る効果の検証

(1)訪問前後の医療費の比較(訪問前後で、同一医療機関を受診した対象者のデータのみ抽出)

	訪問実施者	レセプト数			診療日数	医療費総額
		総数	うち、 頻回受診	頻回受診 の割合		
訪問前	169	784	408	52.04%	10,464	32,667,920
訪問後		700	167	23.86%	6,248	15,079,840

- 考察等
 - ・頻回受診をしていた者のうち、77人は同一医療機関への受診を止めている。(理由は不明)
 - ・レセプト数が減少。うち、頻回受診は大幅に減少。
 - ・医療費は大幅に減少。診療内容の変化が関係していると考えられる。
 - ・ただし、この中には必要な頻回受診をしている者も含まれるので、全てが訪問事業の効果と考えるには注意が必要と言える。
 - ・また、新型コロナウイルス感染拡大予防のために受診を控えた分も含まれると考えられる。

(2)頻回受診の解消度合と医療費等

		※頻回のみ		全医療費	※頻回のみ		全レセ数
訪問実施者	246	訪問実施前の 医療費	27,700,920	64,975,490	訪問実施前の レセプト数	553	2,814
訪問後も頻回 受診	61	うち、	5,961,650	12,931,860	うち、	208	735
訪問後、頻回 受診解消	185		21,739,270	52,043,630		345	2,079
頻回受診解消 率	75.20%	訪問実施後の 医療費	5,314,350	43,580,730	訪問実施後の レセプト数	184	2,429
		うち、	5,314,350	11,804,480	うち、	184	712
			0	31,776,250		0	1,717

- 考察等
 - ・頻回受診をする人数が減少。(しかし、スタートが頻回受診100%なので減少することは自然と考える)
 - ・医療費も減少。とくに、頻回受診をしなくなった者の医療費が大幅に減少。一定の効果と考えることができる。
- 懸念事項
 - ・(1)と同様に、必要な頻回受診をしている者の医療費を考慮する必要がある。
 - ※頻回受診が解消した者(185人)のうち、放射線治療(がん)の医療費の差額 約960万円(医療費が高額な63件を調査)
 - ・新型コロナウイルス感染拡大予防のために受診を控えた分も含まれると考えられる。
- まとめ
 - ①頻回受診の解消については、訪問事業が一定の効果があったと考えられる。
 - ②必要な頻回受診と思われる者を除いても医療費が減少していることから、訪問事業が被保険者の適正受診につながっていると考えられることができる。
 - ③頻回受診者しか対象としていないため、重複受診者、多剤処方者等も対象にするなど、見直しが必要と考えられる。